

令和6年度 接続期カリキュラム研究推進 山元地区 活動報告

子ども観を共有し、
育ちをつなげる接続期のカリキュラムづくり



令和5年度～令和7年度 接続期カリキュラム研究推進地区



令和5年度

とにかく、たくさん交流して
お互いを知ろう！



たくさん交流できたけど・・・ お互いの理解は深まってきたけど・・・
管理職と担当者だけのものになっている・・・

課題

そこで・・・令和6年度は・・・



- 職員みんなが接続期（架け橋期）について理解し、大切に考えるようにしよう。
- 引き続き、子ども間、職員間の交流を推進しよう。
- 小学校と園が協働し、架け橋期のカリを作成しよう。

交流のスタート

まずは、校長と園長、担任同士の顔合わせから

- ・今年度の目標→架け橋期のカリキュラム作成
- ・おおまかな交流計画

園と学校の年間交流計画を立てる

授業参観、授業研、運動会、公開保育など、管理職、職員同士がお互いの教育活動を参観し、子どもの様子や指導観を理解したり共有したりするために交流計画を立案

事業名	日時	内容
委員長・副委員長顔合わせ	4月5日	小学校校長の園訪問。
山元小学校入学式	4月8日	竹之丸保育園長参会。
スタートカリ公開	4月15日	スタカリの校内公開。竹之丸年長担任参観。
小学校1年授業参観	5月10日	保育園参観
推進委員会	5月で調整中	今年度の活動計画他
小学校生活科授業研究	5月17日	保育園参観
小学校運動会	5月25日	保育園参観
小学校生活科授業研究	6月14日	保育園参観
公開保育	日程調整中	午前中 竹之丸保育園で実施
園児・児童交流活動	日程調整中	小学校、保育園、地域での交流活動(年間複数回予定)
小学校生活科授業研究	7月5日	保育園参観
幼保小合同研修会	7月24日	接続カリキュラムについての研修および講演会
推進委員会		目指す子ども像、カリキュラム作成他
保育園運動会	10月5日	小学校参観
小学校研究発表会	11月9日	保育園参観
公開保育	日程調整中	小学校参観
新入生保護者説明会	2月14日	はじめましての会(園児学校体験)
推進委員会	2月で調整中	今年度のまとめ、カリキュラム作成他

ワクワク入学式



昨年まで、ちょっと固かった入学式。今年度は
1年生が「わくわく」できるものにしたい！



2年生応援団

今までは、2年生の
呼びかけと校歌紹介
でしたが、今年度は
1年生を囲んでの應
援団風ダンスを行っ
ました。

学校のキャラクター 「やまもるくん」登場

「やまもるくん」がス
テージから1年生へ
メッセージ。
6年生が着ぐるみを着
て「やまもるくん」に
なりました。

校長の話から学校探検へ



「こんな部屋があるよ」の最後に
「カエルがいる部屋があるよ」と紹介。
翌日から校内カエル探し探検が始まりました。
カエルの居場所は校長室。



スタートカリキュラム校内公開(4月15日)



1年担任

スタカリのことを先生方に理解
してもらうため、一日授業を
公開します！

なかよしタイム



学校探検



山元小学校接続期カリキュラム授業参観資料

1. スタートカリキュラムで育てたい子どもの姿

- 安心して自分を表現し、やってみようという気持ちになる子ども。
- 新しい字や学校のルールを受け入れ、学級の一員として協力的に活動できる子ども。
- 幼児期の学びを生かして、自己肯定感を高め、主体的に学習に取り組む子ども。

2. 接続期カリキュラム授業参観の目的

- 校内の先生方に「1年生のスタートカリキュラムとは？」について知ってもらう。
- 育てたい子どもの姿に向かうための環境設定、手立てを検討し、明日からの子どもの学びに活かす。
- 子どもたちの姿からこれまでの学びの土台を見取り、学びの履歴を自分の学年の子どもたちの学習に活かすという意識をもつ。

3. 一日の流れ

4月15日(月)【第6日目】

時間	○子どもの活動	☆手立て ★留意点
8:00	○登校。 ・朝の支度が終わったら好きな遊びをして楽しむ(なかよしタイム)。 ○AETの先生の紹介をテレビで見る。	☆好きな遊びを選択し、行うことができる場をホールに設定する。 ☆見て分かる、できるにつなげられるように、靴を脱ぐ場所、片付け方を場所ごとに掲示しておく。
8:25	○ドキドキの1年生を歌って楽しむ。	☆元気に歌っていることや、みんなの音が合わさって素敵な歌になっていることを価値づける。
8:40	○今日のめあてははてな相談して 今日解決することを決める。 ・今日こそかえるさんを見付けたいな。 ・たし算のお勉強もしてみたいな。	☆短冊を用意しておく。 ・ビグ：楽しみ、やってみよう。 ・着：どうしたらいいかな。 ・着：解決策。 ☆状況によって、その場ですぐに解決できそうなことはみんなで話し合う時間を設ける。
8:55	○挨拶、健康観察。 ・はい、元気です。 ・今日はキッズに行くよ。 ・お兄さんお姉さんと一緒に帰るよ。	☆自分で自分の帰る方を自覚できるよう、手すりをしよう声かけする。 ☆下校コース別に色のシールをめあてはにつけておく(人学までに)。 ☆どっちの方が多いのか、数教の学習問題に繋がるよう、好きな動物を答えてもらう。 ☆一日の流れの見直しをもてるように、短冊を順番に黒板に貼る。
9:05	○体育着に着替える。	
9:15	○計測。 ・体育着の着替え方を確認する声かけをする。 ・体育着とは違い、靴下を脱ぐ、赤白帽子は置いていくことを指導する。 ・前日の体育着名前前順に並んだことを確認する声かけをする。	☆体育着の時の着替え方を確認する声かけをする。 ☆体育着とは違い、靴下を脱ぐ、赤白帽子は置いていくことを指導する。 ☆前日の体育着名前前順に並んだことを確認する声かけをする。
9:40	○かえるさんがどこにいるか、予想する。 ・池にいると思うよ。 ・どこかのお部屋の中だと思うよ。 ・動物室があるんじゃないの。	☆かえるさんがいると予想する場所や行ってみたい場所が沢山出た場合には、どうやって帰るか問い返す。 【興味のあるところに行きたい】。 →学校内を自由探索。 【教室に帰ってかえるさんを探そう】。 →みんなで並んで帰る。
9:50	○探検の約束を定める。 ・静かにした方がいいね。 ・学校の中は、走ったらいけないよ。	☆お兄さんお姉さんは勉強している時間であることを伝えてから、どうやって探検したらいいか問いかける。 ☆校内の先生方に協力を呼びかけておく。 ☆戻る時間を伝える。

9:55	○学校探検に由かける。 ・かえるは見つけられなかったよ。 ・図書室があったよ。	☆かえるを見付ける以外にも、子どもが目撃しているものや気になっている場所があったら声かけをする。
10:10	○教室に戻って、見つけた物や気になったことを伝え合う。 ・図書室を見つけたけれど、入れなかったよ。どうしたらいいかな。	☆探検中の写真を廊下で置き、通達テレビに写し出す。 ☆次に探検に行きたい場所を短冊に残す。 ☆廊下ごとに整理して板書する。
10:30	○自由遊び、トイレ水飲み。	★行動観察。 友達への様子。 やってみよう遊びを見つかるかな。 自分から声をかけるかな。 誰と遊んでいるかな。
10:50	○なかよしタイム。 ・うさぎとタンバリンはタンバリンの方が多いよ。 ・銀を引くと分かりやすいね。 ・ブロックを並べてみても分かるよ！ ・子どもの興味を持ち方によって、園工の「あよこまきかざり」に愛用されるかも！	☆手元の教科書と同じもので考えられるように、教科書の拡大掲示を用意しておく。 ☆傾いている子に適宜ブロックを渡し、その解決法を全体で共有する。
11:40	○今日の自分の給食の仕事を確認する。	☆金曜日に同じ当番だった子がやり方やコツを教えてあげる時間を設ける。 ☆視覚的に捉えることができるよう、金曜日に使用したものと同じ掲示を黒板に示して確認する。
11:45	○由差。	★給食当番指導、教室待機指導に分かれる。
12:05	○いただきます。 ・給食おいしいね。 ・牛乳は苦手だけど一口だけ頑張ろう。 ・友達と一緒に食べると楽しいよ。	★行動観察。 食べる態度、食器の持ち方、姿勢、好き嫌い、表情。 ☆楽しく美味しく食べている児童や苦手だけど頑張っている児童を価値づける。
12:40	○ごちそうさまでした。 ○食器を返す。 ○トイレ、水飲み。 ○帰りの支度。 ○色とキッズを確かめる。 ○次の日の予定を確認する。	☆持ち帰る物を掲示しておく。 ☆かえるさんが出てきたら、短冊にためておく。
13:15	○さようなら。 ○教室の中で色ごとに並ぶ。	☆下校コース方面の色のカードを用意しておく。
13:20	○色ごとに教室を出る。	

*子どもの興味を持ち方や様子によって、活動内容や時間が大きく変更する場合があります。

放課後に全職員で研修会

講師：こども青少年局保育・教育支援課 武山 朋子先生

☆子どもたちの素敵な姿

園での経験（サークルトーク）→テレビ朝会をみんなで円になって視聴

主体性の発揮→カエル探し「きっと〇〇にいる」「グループになって探そう！」

○スタカリで大切にしたいこと

安心
楽しさ

主体性を
うばわない

園での経験（できる
こと）を生かして

やってみたい！

できることの把握

誰かの発信→みんなで挑戦

夏季校内スタカリ・架け橋理解研修(7月24日)

講師 認定こども園ゆうゆうのもり幼保園
港北幼稚園
園長 渡邊 英則先生

※区内幼保小も対象に

子どもは安心できると挑戦する→園も学校も子どもがにこにこして過ごせる場所に
乳幼児期→遊ぶ力が大事 遊びの中で非認知能力が育つ

(やりぬく力 感情のコントロール コミュニケーション能力等)

友達と意見をぶつけ合いながら子どもが自分で解決→子どもの主体性を育む

教わること＝考えないこと 自分で考える、自分で行動する 外発的動機付けでは育たない

大人はどっしり構え、子どもが求めてきた時に情緒的に利用可能な存在であればよい

(必要されていないときは、あえて子どもの活動に踏み込まない)

子どもの声によってプランを変えていく

子どもを真ん中にして考え、安心できる
環境の中で主体性を発揮できるように

幼保園からの声を小学校職員が共有

①期待する1年生の姿

- ・明日を楽しみに生活できる。
- ・毎日「学校へ行きたい」と思う。
- ・「学校が大好き」「先生が大好き」
- ・好きなことをたくさんもてる。
- ・新たな発見をうれしそうに報告する。
- ・園の姿同様に主体的を発揮できる。
- ・自分の思いを表現できる。
- ・自分たちで考えて行動する。
- ・失敗を恐れずあきらめない。
- ・園の育ちを発揮する、生かしてがんばる。
- ・自信をもって自分たちの力でがんばる。
- ・困ったときは、周りに尋ねることができる。

②小学校へ望むこと

- ・小学校が安心できる場所、自分らしさを発揮できる場所であってほしい。
- ・結果ではなく、過程を評価してほしい。
- ・子ども一人ひとりが思いを伝えられる場や時間があるしてほしい。
- ・子どもの様子をよく見取る。
一人ひとりの話をよく聞く。
- ・子どもが自分で考え主体性を発揮できるように待つ姿勢を大切にしてほしい。
- ・自力解決に向けて見守ることも大切にしてほしい。
- ・できること、できたことを認めてほしい。

年長児と1年児の交流

○出会い



担任間で打合せをし、根岸森林公園で偶然出会う計画に…。
(1年生は生活科、保育園はお散歩の時間)

1年生の振り返りから、園児へお手紙を送ることに…

らいおんぐみさんにおてがみをおくろう!



またあそぼうね! おなまえおしえてね!

また会いたいな。
遊びたいな。

たけのまるほいくえんの
らいおんぐみさん にあったよ!

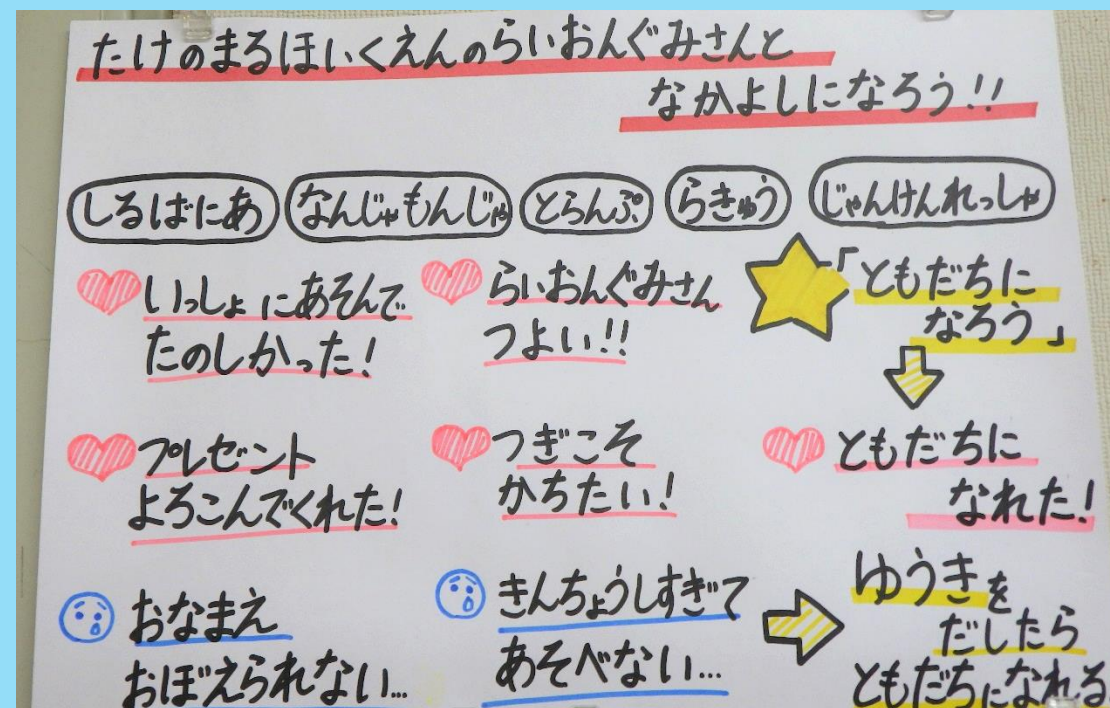
おにごっこ (かくれんぼ) わになつてさようなら

😊 おにごっこがすきだて! 😊 おに おおすぎた!
😊 あしかはやくてびくり! 😊 1ねんせいがか
😊 かあぶがしょうず! 😊 るるまわれない
😊 いっしょにあそぶと、たのしい!! 😊 いや!のこもいた
😊 どうしたい? 6/25

○保育園訪問

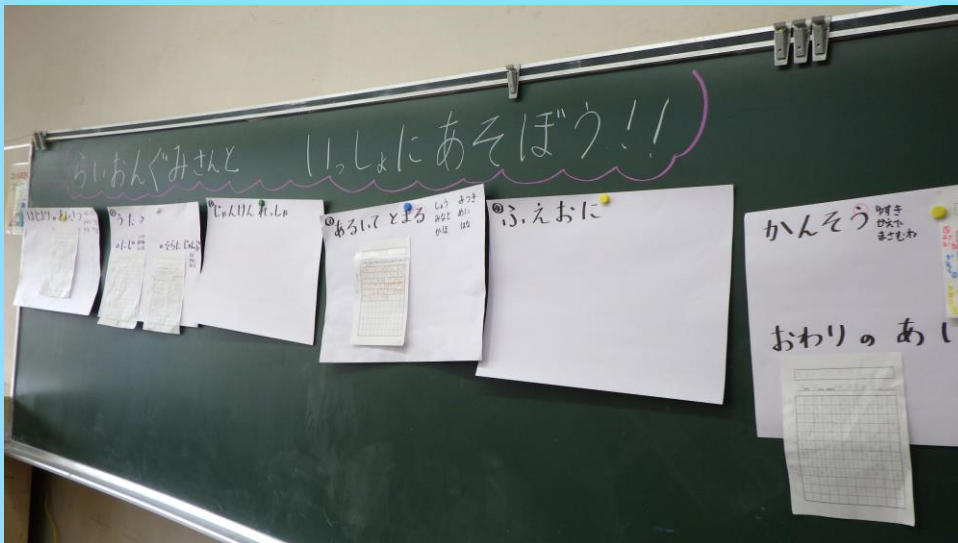
1年生たちの「また遊びたい」との願いから、保育園を訪問することに

園児へたちからも、「また遊ぼうね」のお手紙が...



○園児を小学校へ招待

保育園訪問のお礼に、今度は年長児を学校にご招待



今度は生活科の秋遊びを一緒に
したいな

子どもたちが自分たちでつないでいく交流

○小学校で一緒に秋遊び

1年生が生活科で作り出した「秋遊び」を園児と一緒に楽しむ



冬遊びも一緒にしようね

○他の保育園にも広がる交流



「山小に入学する子どもがいる他の保育園の子どもたちも秋遊びに招待したい」

という1年生たちの願いから交流が広がりました。



本校の畑で獲れたサツマイモを使った焼き芋パーティーや冬遊び、学校紹介などの活動を通して、竹之丸保育園だけではなく、近隣の保育園とも交流を進めました。

○小学校紹介＋みんな遊び

学校の事情で「冬遊び」ができないことになり、
どうするかを1年生たちが考え、企画した交流



〇はじめましての会

入学説明会の日に、就学予定の園児が集まって一緒に活動



小学校教師の読み聞かせやじゃんけん列車などのゲーム、折り紙などを「はじめまして」の園児たちが楽しみました。
新しい仲間との出会いにワクワク、ドキドキ。
笑顔をいっぱい見ることができました。

【今年度の成果と課題】

	成果	課題
保育園	<ul style="list-style-type: none">・ 小学校という初めての場所への緊張が、継続的な交流を重ねていくことで緩和され、就学への期待と小学校への安心につながった。・ 精神的にも、体格的にも近い1年生と関わりをもつことで、園児も安心して、積極的に交流を楽しむことができた。	<ul style="list-style-type: none">・ 子どもたちが期待感をもって小学校へ上がることができるように、アプローチカリキュラムの活用や幼保小の架け橋期の考え方等について、職場全体に共有していく。
小学校	<ul style="list-style-type: none">・ 昨年度からの積み重ねによるスタカリをはじめとした取組が、児童の「安心」した学校生活につながった。・ 保育園との継続的な交流により、1年児童の主体性、協働性、自己肯定感が高まっている。・ スタカリや架け橋プログラムへの理解が昨年度よりも深まり、そのよさを認識している職員が多くなった。	<ul style="list-style-type: none">・ 子どもが安心して主体性を発揮できる学校であるように、子どもの育ちをつなげるスタカリの考え方に基づく学年経営、学級経営が行われるよう、職員の理解をさらに深めながら、学校経営を行っていく。